



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



新年度に入り企業・団体、自治体は、さまざまな取り組みがスタートしましたが、昨年からの新型コロナウイルス感染による社会・経済での影響は相変わらず深刻な状況が続いています。また今年に入って変異株の増加がさらに追い打ちをかける事態となっています。こうした中、世界で取り組んでいるSDGsへの取り組みも大きく影響を受けています。そこで今回は、国連広報のデータとともに現状をみていこうと思います。

～当組織は、内閣府「地方創生官民連携SDGsプラットフォーム」会員となっています～

今月は、三重県農林水産支援センターの村上理事長にご投稿いただきましたので次葉でご紹介いたします。

SDGsの17目標について世界各国の達成状況をみると日本のランキングは17位となっています。

北欧の国が上位を占めていますが、表に無い主要国では、SDGsアメリカが31位、タイが41位、中国が48位、ブラジルが53位、ロシアが57位、インドが117位です。

2020年SDGsランキング上位20カ国

順位	国名	スコア	順位	国名	スコア
1位	スウェーデン	84.7	11位	ベルギー	80.0
2位	デンマーク	84.6	12位	スロベキア	79.8
3位	フィンランド	83.8	13位	イギリス	79.8
4位	フランス	81.1	14位	アイルランド	79.4
5位	ドイツ	80.8	15位	スイス	79.4
6位	ノルウェー	80.8	16位	ニュージーランド	79.2
7位	オーストラリア	80.7	17位	日本	79.2
8位	チェコ共和国	80.6	18位	ベラルーシ	78.8
9位	オランダ	80.4	19位	クロアチア	78.4
10位	エストニア	80.1	20位	韓国	78.3

これまでの日本のランキング



2019年 15位(89.9点)

2018年 15位(78.5点)

2017年 11位(80.2点)

2016年 18位(75.0点)

5年間の平均順位は 15.2位

SDGs達成に向けた新型コロナウイルスの影響

ゴール1: 貧困問題

2020年には、新たに7,100万人が極度の貧困に!

ゴール2: 飢餓問題

小規模食糧生産者はコロナ危機で大きな打撃に!

ゴール3: 健康福祉問題

コロナ禍で、70カ国の子供の予防接種プログラムが中断!

ゴール4: 教育問題

コロナウイルス感染症でさらに不平等が拡大!

ゴール5: ジェンダー問題

コロナウイルス対策で女性が最前線に!

ゴール6: 水問題

ウイルス予防の手洗い設備がない人、30億人!

ゴール7: エネルギー問題

医療施設に不可欠な電気がない途上国 25%!

ゴール8: 経済と雇用問題

コロナ感染症の影響で1人あたりDGPが4.2%減少!

ゴール9: 産業・技術革新問題

製造業の低下、航空業界は史上最大の急落!

ゴール10: 国内・国家間の不平等問題

コロナの影響で所得の不平等が縮小。一方援助も目減り!

ゴール11: 都市・居住地問題

コロナウイルス感染者の90%は都市部に!

ゴール12: つくる責任・つかう責任

コロナ禍はより持続可能な復興計画を策定する機会に!

ゴール13: 気候変動問題

行動規制で温室効果ガス排出量は6%減少の見込み!

ゴール14: 海洋問題

人の活動減少で海洋回復のチャンスに期待!

ゴール15: 森林問題

野生動物の違法取引が感染症肝炎を助長の恐れも!

ゴール16: 平和と公正問題

コロナウイルスの影響は世界の安全に一層の脅威!

ゴール17: パートナーシップ

貧困世帯への送金が約1千億ドル減少!

わが国の2020年SDGs目標別達成度進捗状況

①達成に近づいている (SDG achieved)



②課題を残している (Challenges remain)



③重要な課題を残している (Significant challenges remain)



④大きな課題が残っている (状態が変わっていない) (Major challenges remain)



三重県農林水産支援センターの村上理事長より組織のご紹介をいただきます。



公益財団法人三重県農林水産支援センター理事長の村上です。
昨年6月に就任させていただきました。
これまで、二次、三次産業とは縁があったのですが、初めて
一次産業に関わらせていただいています。

当センターは、農林水産業における中核的支援機関として、
平成13年、県農業開発公社を母体に設 立されました。場所は松阪市嬉野町で、県中央
普及センター、農業研究所、農業大学校に隣接しています。



当センターは、大きく3つの役割を担っています。

一点目は、農地中間管理機構として、農地の集積・集約化の推進。

二点目は、無料職業紹介所として、人材の発掘や就農相談、そして、研修支援を行うなど、担い手の確保、育成を進めること。

三点目は、農業経営相談所として、経営相談や経営診断のほか、経営課題に応じた専門家派遣などを行っています。

このほか、みえの安心食材表示制度も担うほか、中間管理機構の特例事業として、農地の売買の仲介をしています。

事業の柱の一つ、農地中間管理事業がスタートして7年が経過しました。本県では、昨年3月末で 38.9%の集積率、全国平均の
57.1%より低いですが、10ha 以上の面積を持つ事業体の比率 38.3%は、全国平均 10.4%と比較すると、一つの経営体の耕地
面積の大規模化が進んでいます。

さて、皆さんご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症は、生命と健康を脅かすだけでなく、拡大防止策として、人の移動や接触
の制限が求められることから、人びとの生活と社会活動に大きな影を落としています。

我が国においては、インバウンドを含めた観光や外食需要の落ち込みを受けて、高級食材を供給する事業者が苦境に立たされて
いるのをはじめ、県内でも多くの農林水産事業者に影響が及んでいます。

一方、外出自粛やリモートワークの広がりに伴い、外食から家庭における内食や中食へと消費の指向が変化しており、インターネ
ットなどを活用した非接触、非対面による販売や、安全・安心をベースに栄養や健康を重視した機能性成分を多く含む食品へのニ
ーズなどが高まっています。



当センターは、引き続き、農林水産業の担い手確保、育成と農地中間管理機構としての農地の集積・集約を両輪として事業を展開
していきませんが、コロナ禍により変化したライフスタイルや意識、価値観も踏まえ、移り変わりの激しい時代だからこそ、力を入れて
取り組みたいことがあります。

リーダー、経営者の育成です。

本県においては、農林水産業の分野で先駆的な成功事例が数多くあります。そして、そこには必ずリーダーとなる人の存在があり
ます。このような人材の育成、そして、起業家精神の盛り上げを醸成していきたいと常々考え、そのことを実行しようというもので、
4月1日付けで専任職員を配置したプロジェクトチームを立ち上げました。

具体的には、経営発展の段階に応じた適切な支援を通じて経営者の育成を図ることとして、サロンなど集いの場づくりやそこの
研修会、異業種交流やクリエイターとの連携などを通じて、意欲的な経営者の発掘と育成に力を入れてきたいと考えています。

農林水産業が、「食」という、生きていくための人の本能と欲求を満たすための根本的な産業であるにもかかわらず、流行を作る
食材の供給や、働き方改革を含め AI・ICT 等最先端技術も駆使した生産性の向上、さらなる安全安心食材提供に向けての取組、自然・環境との調和、流通の高度化など、未開拓な分野が数多くあると思っています。

そして、他の産業と同じように、農林水産業が十二分に成長の可能性があり、チャレンジするだけの魅力がある産業であると信じ
ています。

誰も経験したことのない状況のなかで、食料安全保障の確保を含め、引き続き、農林水産業が魅力ある産業として持続的に発展
できる一助となるよう、事業を営む皆さん、農林水産業を志す皆さんが、チャレンジングに、やりたいことができる事業環境の整備
を、県やJAをはじめとする関係団体などと連携を強め取り組んでいきます。

引き続き、当センター事業へのご理解、ご協力を賜り、皆さんと一緒に、儲かる農林水産業を目指して取り組んでいきたいと考
えています。

公益財団法人三重県農林水産支援センター
理事長 村上 亘